

2021年度受賞者の活動報告

この度はご支援を賜り誠にありがとうございます。この場を借りて、この一年の活動報告をさせていただきます。

私が活動の主体としていたのは、宇宙医学を志す学生たちが集まる学生団体です。団体の中では、宇宙医学の研究者や医療者と少人数でお話させていただく機会を設け、最新の研究はもちろんのこと、宇宙医学に携わる上でのマインドセットを学ばせていただきました。また、専門家の方々にもご協力を賜りつつ、海外の専門書の翻訳と勉強会を行いました。進捗として、500ページもの書籍の日本語訳がほとんど完了しておりますので、今度は得られた世界の知見を日本のより多くの学習者と共有できるような形にしていきたいと考えております。個人としてもJAXAや様々な研究室のインターンに参加し、研究を進める上での制度から実情まで、日本の宇宙医学の現場を学ぶことができました。また、11月の宇宙航空環境医学会大会では学生セッションの企画運営に携わり、口頭発表もさせていただきました。さらに、宇宙医療に携わる一般社団法人において、末席ですが宇宙ビジネスの世界にも関わらせていただきました。

この賞を通じて得られたものは多々ありますが、最も有難かったのは様々な方とのご縁です。「ザッツ京大」様に自身の活動についてインタビューしていただいたことが契機となり、8月にALSの研究支援を行うせりか基金の黒川様とiPS細胞研究所の井上先生と鼎談する機会を頂きました。宇宙環境を利用した医学研究について新たな視点からの学びを得られただけでなく、難病に対する研究や様々な支援について一医学生として学ばせていただきました。また、歴代の受賞者の皆様との交流や、久能祐子先生とお話しさせて頂く貴重な機会を頂きました。その他様々な宇宙・医療に関わる方々とのご縁にも恵まれ、広い視野から宇宙医学を見つめることができました。

宇宙開発は一人の手で、また机の上でできるものではありません。そこで、この一年は自身で学ぶことはもちろん、数多くの現場を見て、多くの方から学ぼうと努めて参りました。その結果、宇宙医学を享受するだけの立場から、主体的に考え、動き、様々な方々と共に活動できるようになったことが何よりの成長だと感じております。改めて久能悠子様、京都大学の皆様、並びに学びの機会をくださり、私を応援してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。今後は引き続き学生団体の運営、京都大学宇宙総合学研究ユニットの先生方とともに、宇宙医学を学び、盛り上げる活動を続けていきたいと考えております。今後ともご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

医学部医学科 齊藤良佳